



しんらん同人

No.573

3・4
月号

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8
【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

浄土真宗本願寺派
誓願寺
〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8
【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

本願寺では、本年三月から五月まで「親鸞聖人御誕生八百五十
年・立教開宗八百年慶讃法要」がお勤めされます。

この機を前にした令和五年一月に、「新しい「領解文」（浄土
真宗のみ教え）」がご門主より発布され、お同行の皆様と一緒に
拝読、唱和することが示されましたので、ここに解説の資料と
ともにお届けいたします。（本願寺出版社・宗報二月号より）
詳細は今後のご法座等の場で理解を深めていただければと思
います。

「領解文」とは

蓮如上人の時代から、自分自身のご法義の受けとめを表すため
に用いられたもの。「信心正因・称名報恩」の大切さを受け止
め感謝の日々を過ごしますと確認する文章。

ご法座へのご参加
お待ちしております
どうぞお気軽にお越しください



「宿業」争いについて思うこと

お釈迦様は仏教を広めるために重要な教えとして、インドに古くからありました「業」の思想をお説きになられましたので、その後佛教では等閑視出来ない問題となりました。

仏教を思想的に分類すると、因果の法（縁起論）と実相論になります。

縁起論とは、物の道理を時間的な縦の立場で見たもの。実相論とは、空間的な横の広がりの立場で見たのですが、両者は常に交錯しあっていますので「業」の問題にしても本来は因果論に属しますが、実際にはどこまでと言えないほど実相論とは深い関係にあります。

物事には必ず因があります。例えば、

夫婦喧嘩をします。大抵は相手がけしからんということから始まります。つまり人を責めることで喧嘩となります。他人はともかく私はどうだろうかとわが身に目が向けられると、この様な気持ちになつたのは、私のどこかに原因があつたのではないか、人ばかり責めることに慣れていたが、相手ではなく内に目が向かれて自己の因果が感じられてくると、人ばかり責めるわけにはいかなくなります。

ご主人が敷居においた茶碗を、奥さんがうつかりつまずいて壊してしまいました。「茶碗を壊すとは何事だ」ご主人は怒りました。奥さんも負けてはいません。「どうしてこんな所に置くのですか」これはどちらが悪いのでしょうか。自分で正しいと認めたい、それには相手を責めなければなりません。聞けばどちらにも言い分があります。そうしてどちらも相手を責めています。

「すみませんでした、うつかりして」そうなればご主人も「こんな所に置いた自分が悪かつた」と円満にいきます。ところが「何を言うのですか」と逆に出ますからおかしくなります。

ある人が言いました。「『こそ』という言葉は相手に付けるもので、自分に付けてはいけない」

奥さんが「あなたが会社にお出かけの後、何もかも私がやつていれば『こそ』家の中がうまくいくのですよ」と言えば、ご主人は「何を言うのか、外で敵千人と言われる中で頑張っているからこそ」給料がもらえるのだ」とおっしゃるでしょう。各々が自分に『こそ』を付けています。それではうまくいきません。

ご主人が「お前が一生懸命やつておれば『こそ』私

も安心して外で働くことが出来るのだ」と言えば、奥さんは「いいえ、あなたが外で働いてくださいいれば『こそ』、安心して暮らせますからおかしくなります。

争いは自分の姿に目を向けずに相手ばかり責めるところに生じます。これは本当に悲しい人間の宿業です。自分に目を向ける、自己凝視とでも言いましょうか、自分に目を静かに向けていくということが必要ですしそれを知らせて下さるのが仏法の智慧であります。

仏さまの教えに会うとは、他人の姿ばかり見るのではなくて自分はどうなのかなとわが身に目を向けられる、そのようなお育てをいただくことです。



合掌

副住職
法話

誓願寺 副住職 古賀明徳

国豊に・民安くして・兵戈用いることなし



『仏説無量寿經』というお経様の中にあるお言葉です。

阿弥陀様のみ教えが広まる所は、世の中は平和に治まり、太陽も月も明るく輝き、風も程よく吹き、雨も程よく降り、災害も起こらず、国は豊かに、民衆は平穏に暮らし、武器を取って争うこともなくなるという事を示されました。

私たち一人一人が、歴史上で起こっていることをしっかりと受け取り、み教えが広まることがそのまま平和運動であるような念佛者としての毎日を歩ませていただきましょう。そのように教えていただいているような言葉として受け取れます。

ロシア・ウクライナ間での戦争が起こり一年が経つ中、二月の布教使研究課程で戦争について改めて考えるという講義がありました。

太平洋戦争が終結して七十七年余が経ちました。多くの方々がお亡くなりになられた中で、六三七一人・何の人数だと思われますか。日本の陸海軍で特攻を試み、命を終えていかれた方の数です。その方たちの平均年齢は二十一歳半ば。愛する人を守り愛する祖国を守るために死地に向かわれたのであります。

私は今、その方たちに恥じない生き方をしているのでしょうか。戦争は自分に関係のない過去のことであり、遠い外国のことだと思ってよいのでしょうか。

日ごろ、自分のことに捕らわれている私。周りの人と意見が合わなかつたり否定的な見解を言われると、その相手を嫌い嫉み、攻撃的な態度で接してしまう。その行動が争いを生み出していくのではないでしょうか。

阿弥陀様のみ教えをお聞かせいただく者として、周囲への向き合い方を見直し、相手の立場で考えられる者として成長したいものです。

今まさに起こっている争いをどのように考えるのか、皆様とご一緒に考えましょう。

合掌



ご法座等
のご案内

どなたでもご自由にご参加いただけます。
参加費は無料です。

3月

4月

3・12
(日)

4・9
(日)

午前十時～
定例法座

【田原哲師（東京都）】
正午～
医療相談

【佐藤公彦医師】

午前十時～
定例法座

【森薰師（大阪府）】
正午～
医療相談

【佐藤公彦医師】

3・26
(日)

午後一時～
彼岸会・祥月命日合同法要

【高務哲量師（福井県）】

4・23
(日)

午後一時～
定例法座・祥月命日合同法要

【三原信隆師（大阪府）】

3・19
(日)

午前十時～
なかよしクラブ

（乳幼児から小学生までとその保護者）

4・16
(日)

午前十時～
なかよしクラブ

（乳幼児から小学生までとその保護者）

・年賀状その一。「年賀はがき　お年玉賞品」の、なんと、なんと、なんと、二等賞に当たりました。四桁の数字です。ふるさと小包で有名店のラーメンを十数個もらうことになりました。金額的には今一歩の感ですが今年の運?を使い果たした気もします。新たな気持ちで頑張りましょう。

・年賀状その二。一足早く年末から届く喪中のハガキ。以前は祖父母、両親等の訃報が多くたのですが、昨年末から新年にかけて、直属の上司、同僚、学友、後輩の名前がありました。一期一会の思いで年賀状や「しんらん同人」を発送した年でした。

・誓願寺にも新年早々コロナがやってきました。住職・副住職に続いて、坊守とベトナムから帰省中の孫たちも発熱と喉の痛みに苦しました。このため一月八日の法座も急遽中止となり、ご講師はじめお同行の皆様にご迷惑をおかけいたしました。おかげさまで月末には全員体調も回復し、日常生活が戻りました。

・コロナも少し落ち着いてきました。いつでもお寺にお越し下さい。おいしいお菓子とお茶を用意してお待ちしております。皆さんとおしゃべりすることは楽しいうれしい時間です。

（坊守）

編
集
後
記

